

(様式 1)

令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立二葉小学校
校長名	由良 隆

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・平均正答率は、全学年国語と算数の教科で全項目、全国平均より上回っている。4～6 年は社会科と平均正答率が全項目で全国平均より上回っている。教科担任制で教員が専門性をもって指導している成果が出ている。 ・6 年生の英語は、昨年度の 6 年生と比べ、「思考・判断・表現」の項目が約 6 ポイント伸びた。 ・5・6 年生に関して言えば、昨年度の理科の標準スコアが上がっており、4～6 年生の「思考・判断・表現」の項目が全国平均より上回っている。理科専科を中心に授業改善に取り組んだ成果が出ている。	・昨年度同様、6 年生の理科の「知識・技能」の項目が、全国平均を下回った。また、4 年の理科の「知識・技能」は全国平均と等しい。引き続き、理科に関する確かな知識が上がるよう教材教具を研究していく。 ・どの学年も、データの活用や記述式の問題で正答率が下がる傾向がある。得た情報を適切に処理したり、表現したりする力を付けられるよう課題の出し方や教材の工夫をしていきたい。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・グループ交流や、意見交換などの学び合いに 85%以上の児童が肯定的である。 ・「好きな教科や授業がある」では、どの学年でも肯定回答が 85%以上に届いている。	・自分で学習計画を立てて取り組んでいる児童の割合が 50～60%にとどまっている。 ・「自ら進んで分からないことを調べているか」の項目が全国平均より低いため、受け身ではなく自ら獲得していくよう指導する必要がある。 ・B C 層の児童の自己肯定感が低い傾向にある。教師が児童に自己肯定感もてるよう、声掛けや教材の工夫を今後も継続して働き掛けていく。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・考えを交流しながら課題を解決し、学習したことを振り返り、次の学習に向かう意識が高まってきている。 ・学習したことを基に話し合い活動をしようという意識に向上が見られた。 ・文章を書くことに抵抗感が少なくなり、語彙力や構成力の向上が見られた。	・家庭での学習習慣に差があるため、宿題の在り方を見直し、学習の個性化を図る必要がある。 ・話し合い活動で、人任せにする児童や意図から外れた発言をする児童が一定数いる。伝える力を伸ばしていくことと同時に、協働的な学習を推進する授業力を付けていくことが課題である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学習規律の徹底と学習意欲の向上

- 「のびる二葉の子」を基に、基礎基本的な学習規律の定着を図る。また、個別に使用できる学習用具や器具の充実を図る。
- 学級全体で話し合ったり伝え合ったりする活動を取り入れ、自信をもって発言したり、考えを深めたりできるようにする。言葉で伝えることが苦手な児童に対しては、ロイロノートを活用したアプローチを図る。
- 「学年×10分+10分」を家庭学習の目標時間として保護者に協力してもらい、学習習慣の定着を図る。「宿題」の在り方を見直し、ミライシードを基本とした基礎基本の定着の学習をベースに、学習の個性化を図れるような取組について検討する。
- 授業の導入には、本時で何を学ぶか（課題をつかむ）、授業の終末には、本時で何を学んだか（知識の整理）、どう考えるか（思考の整理）を意識した学習感想を書き、学習内容の定着を図ったり、次時への意欲付けをしたりする。
- 道徳を要として、学校教育全体を通して非認知能力の向上を図る。

(2) 個別指導の工夫

- 朝学習や休み時間、長期休業期間を活用し、テストの見直しや補充的な学習など、個に応じた指導を行う。
- マス計算、視写、既習の漢字の読み書き、基礎計算、都道府県名などに取り組みさせる。
- 東京ベーシック・ドリル、問題データベース、ミライシードを活用し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。児童の学習状況を捉え、既習内容を活用した、発展的な課題に取り組みさせる。
- 「ぐんぐんのびる二葉タイム」（算数の基礎計算）で対象児童を重点的に指導する。

(3) 教員の授業力向上

- 校内研究では、昨年度の研究である「学びに向かう力の育成」についての研究で培ったものを基に、本年度の『思考力・判断力・表現力』を育むカリキュラムマネジメント』について研究している。教科の垣根を越えて思考力・判断力・表現力を高める活動を計画的に取り組んでいく。
- 問題解決型のプロセスで、「見通し」と「振り返り」を重視し、自分の言葉で整理したり、次の学習のイメージをもったりする時間を設けるなどの授業改善を行う。
- 教科担任制等推進校についての取組を進める中で、国語・社会・理科の専門性を向上させる校内研修を行う。
- 教科担任制実施以外の学年では、教科の専門性の高い教員と連携し、授業で使用する資料の選定や、実験道具等の準備を学年の複数の教員で行い、活用方法や授業の進め方等を十分に確認する。

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全教科の全観点において、全国平均+5ポイント以上を目指す。
- ・全学年全教科において標準スコア 55 を目指す。
- ・i-Check 自己肯定感（7）の肯定回答が 70%となるようにする。